

Bang & Olufsen

B E O S Y S T E M 7 0 0 0

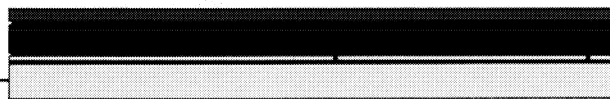
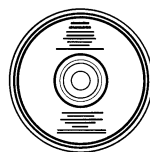
*Beosystem 7000*は、とても操作が簡単なミュージックシステムです。座っている場所から一歩も動くことなく、すべての操作が行えます。

Beolink 7000 が、*Beosystem 7000* に含まれる各製品と全機能を統率する、あなたの鍵。*Beolink 7000*をどこに持ち運んで使おうと、あたかもシステム全体があなたと一緒に移動しているように感じていただけるでしょう。

Beolink 7000 の本体上に、*Beosystem 7000* のあらゆる機能が次々に表示されていきます。

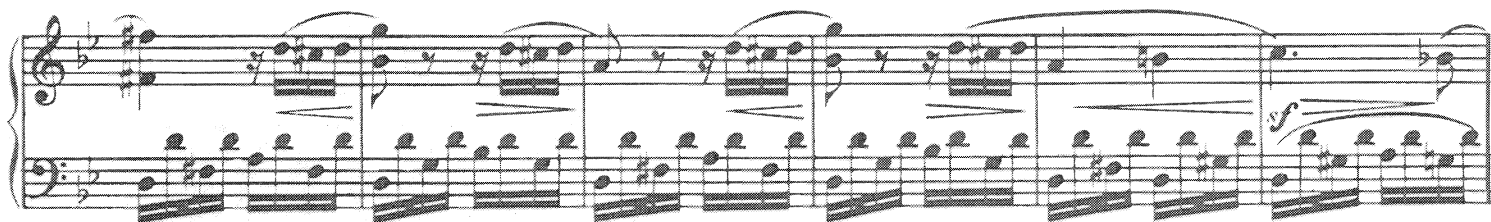
注：この説明書は、*Beolink 7000*を使って*Beosystem 7000*を操作する場合の説明書です。他のリモートターミナルをご使用の場合は、*Beolink 1000*または*Beolink 5000*の取扱説明書をご参照下さい。また、*Beolink 5000*の主な操作の説明は、本説明書のP.42,43をご覧ください。

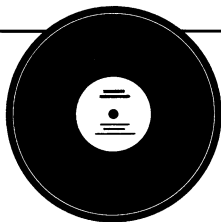
*Beosystem 7000*本体での操作は、*Beosystem 7000* セットアップガイドをご参照下さい。



Beocord 7000

Beogram CD7000





Beogram 7000



Beomaster 7000

Beolink 7000を使って、あなたとシステムの間で会話を行うことができます。

Beolink 7000に触れるだけで、いつでも、システムが現在何を実行しているかを教えてくれます。

同時に、Beolink 7000は、その時点で操作可能な操作キーを、表示してくれます。Beolink 7000は、あなたをすばらしい音楽の世界へ案内するガイドとして、あなたの前に広がる道を示します。



注意：Beolink 7000 は、Bang & Olufsen の現行のすべての製品の操作ができます。Beolink 7000 の取扱説明書も、あわせてご覧ください。

Beolink 7000 は、使用するシステムの構成に従って、初期設定できます。初期設定を行うと、システムを構成する製品によって行える操作機能だけを、Beolink 7000 の本体上に表示させることができます。初期設定の方法につきましては、Beolink 7000 取扱説明書の、20ページをご覧ください。

Beosystem 7000 の各製品のセットアップ、および保守につきましては、Beosystem 7000 セットアップ・ガイドをご覧ください。。

また、Beosystem 7000 の各製品の本体上で行える操作の詳しい説明につきましても、Beosystem 7000 セットアップ・ガイドをご参照下さい。

- 6 起動
 - 日常よく使う操作について
- 7 テンキーの使い方
- 8 ディスプレイ

- 9 ラジオの操作
 - ラジオ局の選局
- 10 ラジオ局のプリセット
- 11 ラジオ局にコードネームをつける

- 12 CDプレーヤーの操作
 - CDのセット
 - CDの演奏
- 13 様々な機能/選曲プログラム/ディスプレイ

- 16 テープレコーダーの操作
 - テープのセット
 - テープの演奏
- 17 様々な機能/選曲プログラム/ディスプレイ
- 19 録音

- 22 レコードプレーヤーの操作

- 23 他ソースのコントロール
(CONTROL機能)

- 24 プログラム機能
 - 時刻のセット
- 26 タイマープログラム
- 30 タイマー録音
- 31 連続演奏予約プログラム(PLAY NEXT)
- 32 サウンド調整

- 34 インデックス
 - 赤い操作キーについて
- 35 白い操作キーについて
- 38 操作メッセージ
- 40 ディスプレイ表示について
- 42 Beolink 5000での操作方法

赤いキーを表示させる

Beolink 7000 の下にある、金属部分を軽く叩いて下さい。Beolink 7000 は文字通り、立ち上がり、まず操作する必要のある各キーをあなたに示します。同時に、システムの現在の状況を表示します。

Beolink 7000 の操作を、さらにシンプルなものにしたい場合は、最も基本的なキーだけを残して他のキーを隠してしまうこともできます。赤いキー MASK に触れると、キーが隠されたり再び現れたりします。

注意：Beolink 7000 は、操作が続けられている間、ずっと起き上がったままです。何の指示もあたえられないまま約 30 秒以上放置されますと、すべてのキーとディスプレイは自動的にオフになります。再びオンにする場合は、パネルに再度触れて下さい。

ソースの選び方

Beolink 7000 が立ち上がったときに、システムがスタンバイ状態だった場合、青いディスプレイにある白いキーが、あなたのシステムに含まれている全ソースを表示します。

システムが演奏中の場合は、演奏中のソースに関連した赤と白の操作キーが、自動的に点灯されます。

他のソースを選ぶときは、赤いキー SOURCE に触れて下さい。青いディスプレイの中に、選択可能な全ソースが表示されます。

RADIO	ラジオを聴く
1 - 24	プリセット番号を押す
CD	CD演奏を聴く
A.TAPE	テープ演奏を聴く
PHONO	レコード演奏を聴く
SOURCE	他のソースに切り替える

Beolink 7000 に触れると、キーが現れます。

ソース選択画面が現れる→

もし、右図の表示が現れない場合は、赤いキー SOURCE に触れて、この画面を呼び出して下さい。

選みたいソースの名前に触れてください。
例えば、ラジオを聞きたいときには、RADIO に触れる。



選んだソースが、すぐに演奏を開始し、ステイタス（現在の演奏状況）が表示されます（RADIO を選ぶと、最後に聞いていたプリセット局番号も表示されます）。

PLAYING STRUER
PROGRAMS: 1 2 3 4 5 6 7 8

TUNE

SETUP

0-9

ラジオのプリセット局番号や、CD、テープのトラック番号の指定をダイレクトに行う

<

前のプリセット局、トラック番号を選曲／選局

>

後ろのプリセット局、トラック番号を選曲／選局

△

音量を上げる

▽

音量を下げる

MUTE

スタンバイにすることなく、システムの音を止める。もう1度触れると、元の音量で音が出る。

●

システムをスタンバイ状態にする。

テンキーの使い方**選曲／選局**

テンキーと左右を示す2つの矢印で、プリセットしたラジオ局の選択や、CDまたはテープの選曲ができます。キーボード上の必要な番号に直接触れて下さい。0を選ぶと、直前に聞いていたラジオ局が演奏開始します。

< と >で、前後のプリセット局やトラック番号をステップ選曲できます。

ボリュームの調整

音量の調整は、上下を示す2つの赤い矢印△と▽で行います。

現在のボリュームレベルは、右上の赤い数字で表されます。

システム全体のミュート

1番下の段にある赤いMUTEキーは、スイッチを切ることなく、スピーカーから出る音だけを一時、消します。

スイッチ オフ

赤い●のボタンで、システム全体がスタンバイモード*になります。

*スタンバイモード：バング&オルフセン製品では、スイッチオフ状態を意味します。この状態で、何らかの操作を行うとすぐ作動します。

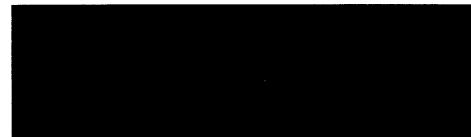
赤いディスプレイ STATUS表示

システムの現在の状況（ステイタス）は、Beolink 7000 の一番上に表示されます。ソースを変えたり、ボリュームを調整したり、他の局を選ぶなど、システムのステイタスを変えるたびに、ステイタス・ディスプレイも変わって行きます。

右に例を示します→



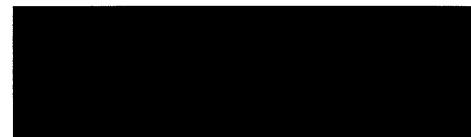
プリセットされたラジオ局 ボリュームレベルは 24
5 を演奏中



CD の 8 曲目を演奏中 ボリュームレベルは 32



テープの 8 曲目を ボリュームレベルは 40
演奏中



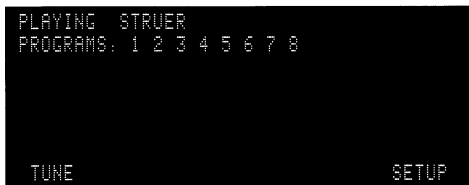
レコード演奏中 スピーカーはミュート
されている

青いディスプレイ

青いディスプレイには、ある操作を進めるのに必要な情報や、会話の「台本」が表示されます。そのため、表示される内容は、操作の各段階で刻々と変わっていきます。

青いディスプレイ内の下の 2 行が、その時々で行える操作を示す操作キーです。

右に例を示します→



STRUER というコードネームを与えられたラジオ局を受信中。テンキー（赤いキー）を使って選択可能なプリセット局が、8 局あります。



CD 演奏中。演奏中の CD には、9 曲含まれています。



テープ演奏中。演奏中のテープには、10 曲以上含まれています。



レコード演奏中。

ラジオ局の選局

プリセット番号でラジオ局を選べるようにするには、当然のことですが、まず受信可能なラジオ局をプリセットする必要があります。

ラジオ局の選局は、周波数指定、または自動サーチでシステムに見つけられる自動選局のどちらから行います。

注意：Beomaster 7000 は、AMとFMの両方のバンドを受信可能です。受信可能な局をすべて受信するために、適切なFMアンテナとAMアンテナをつけて下さい。アンテナの接続のしかたは、Beosystem 7000 のセットアップ・ガイドをご参照下さい。

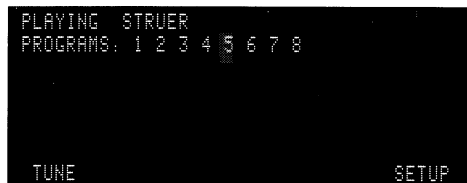
FM室内アンテナ：8902010 (¥4,000)

AM室内アンテナ(AA10)：8920376 (¥19,800)

ラジオ局の選局 RADIO

ソースとして、ラジオを選びます。

青いディスプレイに下のような画面が表示されます→



この画面は、どのプリセット番号が既に使われているかも、表示します。この場合ですと、1から8までが使われています。

TUNE...ラジオ局の選局モードを呼び出します。

SETUP...ラジオ局のプリセット機能、コードネーム命名機能、プリセット済みの番号の消去、ステレオ受信、モノラル受信の切り替えなどの機能を呼び出します。

周波数指定選局（テンキー指定）

周波数指定選局を行いたい場合は、TUNEに触れて下さい。

この画面が表示されます→

聞きたいラジオ局の周波数が分かっている場合は、FREQNCYに触れてから、赤いテンキーでその周波数を入力します。

自動選局

Beomaster に自動サーチさせたい場合は、<SEARCH SEARCH>に触れます。

Beomaster は、最初の局を受信するとサーチを一時中断します。もし、その局が探していた局でなかった場合は、再度<SEARCH、SEARCH>に触れて下さい。

AM/FMの切り替え

AMとFMを切り替える場合は、AM/FMに触れます。



AM/FM...AMとFMのバンド切り替え。

<SEARCH/SEARCH>...周波数の高い方、または低い方へ向かって、ラジオ局サーチを開始します。

EXIT...選局モード終了。

FREQNCY...周波数指定選局機能を呼び出します。

<FINE/FINE>...受信したラジオ局の受信状態を、さらに微調整します。

ラジオ局のプリセット

チューニングしたラジオ局を、特定のプログラム番号でプリセット（登録）することができます。一度プリセットしておけば、次回からはそのプリセット番号に触れるだけで、その局を呼び出せます。

Beomaster 7000 には、1 から24のプリセット番号に、24局までプリセットできます。

プリセットしたラジオ局の消去も、行えます。

注意：受信可能な強さの電波を発しているFM局を受信すると、Beomaster はその局でロックされます。ロックされると、Beomaster 本体上に LOCKED という文字が表示されます。ロックされた局が、ステレオ信号を発している場合は、Beolink 7000 の青いディスプレイ内に STEREO という表示が表示されます。ステレオ信号の強さが充分でない場合は、システム全体は自動的にモノラルに切り替わります。

ラジオ局のプリセット

聞きたいラジオ局を受信したら、SETUP に触れてラジオの諸機能呼び出します。

この画面が現れる→

PRESET に触れて、プリセット機能呼び出します。

```
PLAYING STRUER
PROGRAMS: 1 2 3 4 5 6 7 8
STEREO

DISPLAY                                EXIT

MONO                                    PRESET
```

DISPLAY....プリセットされている番号の表示を、現在受信中の局の周波数表示に切り替えます。

MONO....ステレオ受信とモノラル受信の切り替え（FMのみ）。

PRESET....プリセット機能呼び出し。

この画面が現れる→

STORE に触れ、赤いテンキーを使ってプリセット番号を入力し、再度 STORE に触れます。

SETUP PRESET STORE 1-24 STORE
→これでプリセット完了です。

```
PLAYING STRUER
PROGRAMS: 1 2 3 4 5 6 7 8

STORE CLEAR EXIT
```

STORE....受信中の局をプリセットします。

CLEAR....受信中の局のプリセット番号消去。

STORE に触れると現れる画面で、受信中の局を好きな番号にプリセットできます。もしも、その局が他のプリセット番号で既に登録済みだった場合は、登録済みの番号が表示されます。登録済みの番号を変更したい場合は、再度 STORE に触れる前に、新たな番号を入力して下さい。

プリセット時にモノラル受信していた場合は、プリセット番号と一緒にモノラル受信も登録されます。

```
PLAYING STRUER
PROGRAM: 9

STORE                                EXIT

DELETE
```

CLEAR に触れると現れる画面には、受信中の局のプリセット番号が表示されます。表示されている番号を消去したい場合は、そのまま再度 CLEAR に触れて下さい。

このようにして、1 から24の番号に、24のラジオ局をプリセットすることができます。

プリセットした番号の消去

プリセットした番号を消去したい場合は、まず PRESET に触れます。続いて CLEAR に触れ、消去したい番号を赤いテンキーを使って入力し、再度 CLEAR に触れて消去完了。

DELETE....入力した番号を変更し、新たな番号を入力し直します。

SETUP PRESET CLEAR 1-24 CLEAR

プリセットしたラジオ局にコードネームをつける

プリセットしたラジオ局に、その局独自のコードネームをつけて、Beolink 7000 に表示させることができます。プリセットしたナンバーを覚えていなくても、覚えやすいラジオ局名で選局することができます。

コードネームは、その局を受信中であればいつでも、青いディスプレイに現れます。

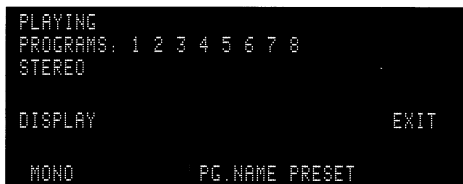
注意：コードネームは、あらかじめ1-24の番号のどれかにプリセットしておいたラジオ局にのみ、つけられます。10文字（数字を含む）までの名前がつけられます。

コードネームをつける

コードネームをつけたい局のプリセット番号に触れてから、SETUPに触れます。

この画面が現れる→

PG.NAMEに触れ、ネーミング機能呼び出します。



この画面が現れる→

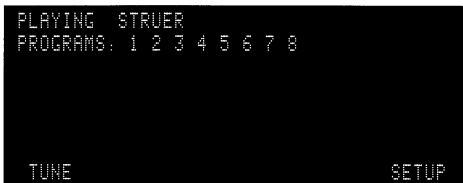
コードネームの「書き込み」を、UPとDOWNキーに触れて、アルファベットと数字を呼び出しながら行います。必要な文字が表示されたら、RIGHTとLEFTに触れて、矢印の位置を一字ずつ移動しながら書き込みます。

注意：ディスプレイ内の文字は、やや遅れて現れます。1つの文字から次の文字に移るのに、適切なキーに2度以上触れると、目指す文字が飛び越されてしまいますので、1度目の動作にディスプレイが反応するのを待ちながら名前をつけていって下さい。

コードネームを「書き込み」終わったら、STOREに触れて登録します。

→コードネームが登録されました。

1-24 SETUP PG.NAME NHK STORE



赤いステータス・ディスプレイには、プリセット番号が表示されます。

上向きの矢印が、文字・数字を入れられる位置を示します。

UP....アルファベット順に、文字・数字が1つずつ現れます。

DOWN....アルファベットの逆順に、文字・数字が1つずつ現れます。

LEFT....上向きの矢印を左へ動かします。

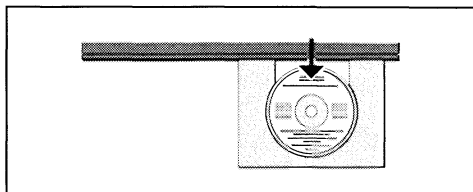
RIGHT....上向きの矢印を右へ動かします。

DELETE....ディスプレイに現れた文字を、消去します。

STORE....ディスプレイに表示されたコードネームを、登録します。

注意：すでにコードネームをつけられている局を呼び出すと、前につけられていたコードネームが表示されます。表示されたコードネームの上から、新たに文字・数字を書き込んで、コードネームを変更することも、可能です。

CDのセット



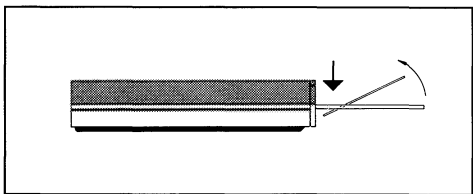
Beogram CD 7000のディスクトレイを開くには、フロントパネルの向って左下にある、OPENを押します。

ディスクトレイが手前にスライドして開きますので、CDのレーベル面を上にして、セットして下さい。

フロントパネルを再度押すと、ディスクトレイは閉まります。

ディスクトレイの正面を押すと、すぐに演奏が開始されます。

CDを取り外す (矢印の場所を軽く押す)



ディスクトレイは、数分間放置しておくとも自動的に閉まります。また、CD演奏の開始が指示されると、直ちに閉まります。

CDの演奏

CD演奏開始

CD

ディスクトレイに乗せたCDの演奏開始を、Beolink 7000 で指示するには、青いディスプレイの中のCDと書かれたキーに触れます。トラック数等、そのCDソフトに関する情報が登録されてから、演奏が1曲目から開始されます。

注意：ディスプレイに、LOAD DISK と表示された場合は、CDプレーヤーにCDソフトがセットされていないことを示します。

選曲 (テンキー指定)

CDの演奏中も、聞きたい曲のトラックナンバーを赤いテンキーで指定して、選曲できます。

前後の選曲 < >

また、赤いキー、< と > を使って、前後のトラックの飛び越し選曲ができます。

CDソフトの全トラックの演奏が終ると、Beogram CD 7000 はポーズ状態になり、新たな指示を待ちます。30分間何の指示も与えられなかった場合は、システム全体がスタンバイになります。

青いディスプレイの中にある白いSTOPキーに触れれば、いつでもCD演奏を中断できます。演奏を再開するには、白いPLAYキーに触れて下さい。

他のソースへの切り替え

CD演奏中に他のソース、例えばラジオを聞きたい場合は、赤いSOURCEキーに触れて、青いディスプレイの中に白いソースキーを呼び出して、RADIOを選びます。

他のソースが選ばれると、CDは自動的にポーズ状態になります。

様々な機能

イントロサーチ／インデックス選曲 ポーズ／前後のサーチ

CDの演奏中は、この画面が現れます。

この画面の中に、様々な機能がメニューのように示されています。



SCAN...イントロ・サーチを行います。CDの各トラックの始めの部分を、数秒間ずつ演奏していきます。この機能を選ぶと、選曲プログラムを行う画面(SELECT/REJECT)が、現れます。

INDEX...特定のインデックス番号を選択します。

STOP/PLAY...CDをポーズ状態にしたり、演奏を再開したりします。

<</>>...曲の前後をサーチします。演奏中のCDの特定の箇所を捜すときに使います。

SEQNCE...選曲プログラム機能の呼び出し。

SETUP...ディスプレイと曲間スペース追加機能の呼び出し。

選曲プログラム

選曲プログラムを行う場合は、SEQNCEに触れます。

この画面が現れる→

SELECTに触れてから、選曲プログラムに含みたいトラックナンバーをテンキーで選びます。

CD SEQNCE SELECT 1 SELECT 2...

REJECTに触れてから、聞きたくないトラックナンバーを選ぶと、そのトラックナンバーは削除され、ディスプレイからも消えます。

CD SEQNCE REJECT 1 REJECT 2...

選曲プログラムの演奏を開始するには、まずEXITに触れ元の画面に戻してから、PLAYに触れて下さい。

注意：最大20曲まで、選曲プログラムに含むことができます。演奏は、プログラムされた順番で行われます。

選曲プログラムの消去

選曲プログラムの消去には、SEQNCEの後、CLR.SEQに触れて下さい。また、CDを取り出すと、プログラムは消去されます。



SELECT...選曲プログラムに含みたい曲を選びます。SELECTに触れると、赤いテンキーが点灯し、トラックナンバーを選択するように促します。

REJECT...聞きたくない曲を削除します。REJECTに触れると、赤いテンキーが点灯し、トラックナンバーを選択するように促します。

10曲以上が収録されたCDを装着した場合、MORE>というキーが現れます。これに触れると、10曲目以降の曲数が確かめられます。

CLR-SEQ...選曲プログラムをクリアします。このキーに触れると、本当にクリアするのかどうか、確認(またはキャンセル)を求めてきますので、YESまたはNOに触れて下さい。

CDを取り出しても、選曲プログラムはクリアされません。

ディスプレイ呼び出し／曲間スペース追加

SETUPに触れて、ディスプレイ機能と曲間スペース追加機能呼び出します。

```
PLAYING
TRACKS: 1 2 3 4 5 6 7 8 9

SCAN          PLAY          SEQNC E
INDEX  <<  STOP  >>  SETUP
```

この画面が現れる→

DISPLAYに繰り返し触れると、残り演奏時間、トラック経過時間、インデックス番号、または総演奏時間ADDED TIMEが表示されます。

ADDED TIMEが表示されている時に、STOPに触れると、そのCDの総演奏時間が確認できます。

曲間スペース追加機能を使用する場合は、SPACEに触れて下さい。

曲間スペース追加機能を解除するには、SPACEに再度触れます。

```
PLAYING
TRACKS: 1 2 3 4 5 6 7 8 9

DISPLAY          EXIT
SPACE
```

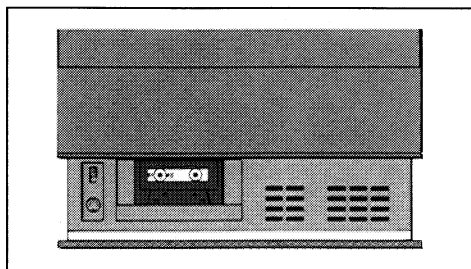
DISPLAY...残り演奏時間、トラック経過時間、インデックス番号を次々と呼び出します。

ディスプレイを切り替えていきますと、総演奏時間を示すADDED TIMEが現れ、そのCDの総演奏時間と、選曲プログラムを行っている場合はそのプログラムの総演奏時間が、確かめられます。STOPに触れると、時間が表示されます。

SPACE...CD各曲の曲間スペースを、延長します。この機能を選ぶと、曲間に4秒間のポーズが確実に差しはさまれます。

曲間スペース追加機能が使われている時は、Beogram CD 7000の本体上に、SPACEという表示が現れます。

カセットテープのセット



カセットテープを出し入れするため、カセットテープホルダーを開くには、キャビネットのフロントパネル左側のOPENを軽く押します。

カセットテープホルダーが、手前にスライドして開きます。カセットテープは、テープの走行面が手前を向くようにセットして下さカセットテープホルダーを閉じるには、再度フロントパネルの左側を軽く押して下さい。

テープレコーダーがスタンバイになると、カセットテープホルダーも自動的に閉じられます。

注意：このテープレコーダーは、使われるテープのタイプ、つまり、ノーマル/クローム/メタルを、自動的に検知します。

テープの演奏

A.TAPE

青いディスプレイの中の、白いキー A.TAPE に触れると、装着したカセットテープの演奏が開始されます。

A.TAPE に触れた直後に、赤いテンキーの1に触れると、テープの始めから演奏が開始されます。

第A面の演奏が終了すると、テープレコーダーはテープを反転させ、第B面の演奏を1秒以内に開始します。

選曲（テンキー指定） / < >

テープの演奏中も、聞きたい曲のトラックナンバーを赤いテンキーで指定して、選曲できます。また、赤いキー、< と > を使って、前後のトラックの飛び越し選曲ができます。

注意：ディスプレイの中に、LOAD TAPE が表示されたら、テープレコーダーにテープが装着されていないことを示しています。

オートスタンバイ

テープの全トラックの演奏が終了と、Beocord 7000 はポーズ状態になり、新たな指示を待ちます。30分間何の指示も与えられなかった場合は、システム全体がスタンバイになります。

ポーズ/停止

青いディスプレイの中にある白いSTOPキーに触れれば、いつでもテープ演奏を中断できます。演奏を再開するには、白いPLAYキーに触れて下さい。

他のソースへの切り替え

テープ演奏中に他のソース、例えばラジオ、を聞きたい場合は、赤いSOURCEキーに触れて、青いディスプレイの中に白いソースキーを呼び出して、RADIOを選びます。

他のソースが選ばれると、テープは自動的にポーズ状態になります。

注意：テープを装着した直後は、Beocord 7000 はそのテープに何曲録音されているのかを判断できていません。特定のトラック演奏を指定すると、Beocord 7000 は一旦そのテープを最初まで巻き戻してから、指定されたトラック番号へ向ってサーチを開始します。

装着されたテープが、少なくとも1回以上演奏された後であれば、テープレコーダーはそのテープに録音されているトラック数を確認済みです。特定のトラック演奏を指定すると、Beocord 7000 は、ただちにそのトラックへ向って巻き戻しまたは早送りを開始します。

テープのトラックナンバーが認識できるのは、曲間のポーズが3秒以上ある場合だけです。

様々な機能

カウンターポジション／早送り／巻戻し
テープの演奏中は、このディスプレイが現れます。

この画面の中に、様々な機能がメニューのように示されています。



GO-TO....テープの特定のカウンターポジションを指定します。指定してもすぐに演奏を開始させたくない場合は、カウンター番号を入れた後でSTOP に触れて下さい。

テープを装着した時は、そのテープが巻き戻されていなくても、カウンターは常に0になります。特定のカウンター番号を指定すると、Beocord 7000 は一旦そのテープを最初まで巻き戻してから、指定されたカウンター番号へ向ってサーチを開始します。

STOP/PLAY....テープ演奏ポーズ、演奏再開。

<< >>....巻き戻し、早送り

SEQNCE....選曲プログラム機能の呼び出し。

SETUP....セットアップ機能の呼び出し。

選曲プログラム

選曲プログラムを行う場合は、SEQNCEに触れます。

この画面が現れる→

SELECTに触れてから、選曲プログラムに含みたいトラックナンバーをテンキーで選びます。

選択されなかったトラックナンバーは、画面から消えていきます。

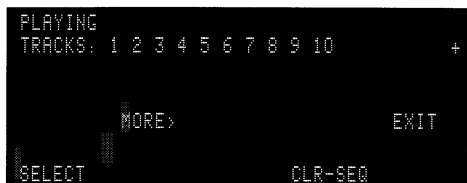
A.TAPE SEQNCE SELECT 1 SELECT 2...

選曲プログラムの演奏を開始するには、まずEXITに触れ元の画面に戻してから、PLAYに触れて下さい。

注意：最大23曲まで、選曲プログラムに含むことができます。演奏は、プログラムされた順番で行われます。

選曲プログラムの消去

選曲プログラムの消去には、SEQNCEの後、CLR.SEQに触れて下さい。また、テープを取り出すと、プログラムは消去されます



SELECT....選曲プログラムに含みたい曲を選びます。SELECTに触れると、赤いテンキーが点灯し、トラックナンバーを選択するように促します。

MORE>....10曲以上が収録されたテープを装着した場合、MORE>というキーが現れます。これに触れると、10曲目以降の曲数が確かめられます。

CLR-SEQ....選曲プログラムをクリアします。このキーに触れると、本当にクリアするのかどうか、確認（またはキャンセル）を求めてきますので、YESまたはNOに触れて下さい。

テープを取り出しても、選曲プログラムはクリアされません。

SETUP に触れて、セットアップ機能を呼び出します。



この画面が現れる→

ディスプレイ表示

DISPLAY に触れると、信号レベル表示とカウンターポジション表示が切り替わります。

テープ面切り替え

テープの裏面を演奏させたい時は、TURN に触れてください。

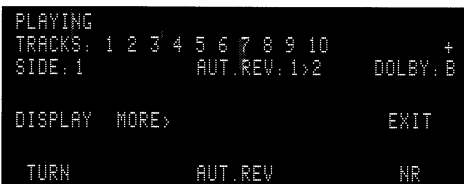
オートリバース切り替え

AUT.REV に触れると、オートリバース機能解除。

再度、AUT.REV に触れると、オートリバース機能復帰。

ドルビーノイズリダクション選択

NR に触れ、ドルビー B、C、オフ切り替え。



DISPLAY...信号レベル表示とカウンターポジション表示切り替え

TURN...テープを裏返し、裏面の演奏開始。

MORE>...テープに10曲以上録音されている場合にだけ、表示されます。これに触れると、10曲目以降の曲数が確認できます。

AUT.REV...オートリバース機能のオン・オフ。

NR...触れる回数によって、ドルビーポジションがドルビー B、C、オフと変わっていきます。

Beocord 7000 で録音したテープには、録音時に使われたドルビーポジションが記録されています。そのテープを再生する時には、録音時に使われたドルビーポジションが自動的に選択されます。

EXIT...1つ前のディスプレイに戻ります。

テープの録音

録音は、システムに含まれたどのソースからでも行えます。Beolink 7000 は、録音の始めから終わりまで、何が進行中であることを示しながら、使う人を導いていきます。

赤いキーRECORDに触れると、録音を行うのに必要なキーが青いディスプレイに呼び出されます。

注意：録音を始める前に、カセットテープホルダーの左側にあるLINE/MIC/AUXスイッチが正しい位置にセットされていることを確認します。

LINE...Beosystem に含まれている他のソースから録音する時。

MIC...マイクフォンを接続して録音する時。

AUX...LINE/MIC/AUXスイッチのすぐ下にある、MIC/AUXソケットに接続されたソースから録音する時。

テープの録音

赤いキーRECORDに触れて、録音機能を呼び出します。

この画面が現れる→

もし、2台目のテープレコーダーがシステムに含まれていた場合は、この画面の前にどちらのテープレコーダーを使って録音するかを、選択する画面が現れます (A.REC A.REC2)。

テープレコーダーが録音ポーズ状態になります。

もしも、テープレコーダーにテープが装着されていなかったり、録音防止ツメが折られていた場合には、LOAD TAPEと青いディスプレイに表示されます。

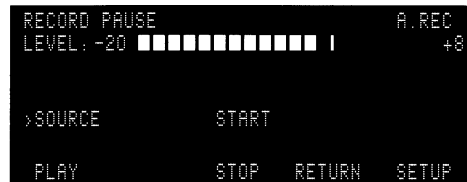
録音ソースの変更

録音するソースを変える時は、赤いキーSOURCEに触れて、青いディスプレイにソースキーを呼び出します。

テープ録音スタート

録音の準備が整ったら、STARTに触れて録音開始。

現在演奏中のソースが、録音されています。



この画面は、テープレコーダーが録音モードになっていることを示しています。信号レベルも、あわせて表示されています。

>SOURCE...現在選ばれているソースの操作をするのに必要なキー、例えば選曲を行うためのキーなどを、呼び出します。録音機能にもどる場合は、>RECORDに触れて下さい。

START...録音を開始します。

PLAY...選ばれているソースがポーズ状態だった場合に、そのソースの演奏を開始するキーです。

STOP...録音モードを解除します。

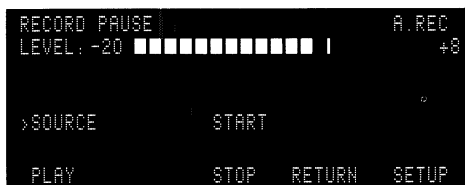
RETURN...直前の録音開始位置へ自動巻き戻し。

SETUP...ドルビーポジション選択機能呼び出し。

注意：Beocord 7000 は、自動録音レベル調整機能を備えています。この機能を使えば、録音時のオーバーロードは起こりません。もし、録音レベルをマニュアルで調整したい場合は、Beocord 7000 の本体についての操作ボタンを使って行って下さい。本体上での操作につきましては、Beocord 7000 セットアップ・ガイドをご覧ください。

録音時のセットアップ

セットアップ機能呼び出すには、SETUP に触れます。



この画面が現れる→

EXIT に触れ、1つ前の画面に戻り、START に触れば録音開始。



→録音が始まりました。

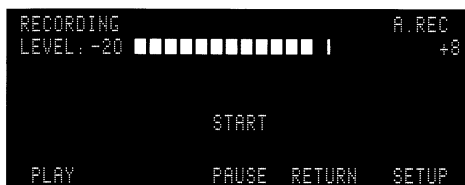
録音中は、この画面が現れる→

録音ポーズ（一時停止）／再開

録音ポーズにするには、PAUSE に触れます。START に触れば、録音再開。

録音モードの解除

録音モードを解除するには、まずPAUSEに触れ....



この画面に戻してから→

...STOP に触れて下さい。



→これで録音モードは解除されました。

注意：セットアップ機能は、録音中でも呼び出せません。

このディスプレイは、テープの第1面 (SIDE 1) に録音が行われることを示しています。また、オートリバーブ機能がオンになっており、ドルビーポジションはBにセットされていることも、示しています。

DISPLAY...現在のカウンターポジション表示の呼び出し（録音中のみ）。再度触れば、録音レベル表示に戻ります。

NR...ドルビーポジション選択。ドルビーB、ドルビーC、ドルビー・オフから選択。



Beolink 7000 の赤いステータス・ディスプレイは、録音中のソースを常時表示しています。

PAUSE...録音ポーズ。テープレコーダーは、4秒間のブランクを、停止する前に挿入します。録音しているソースも、同時にポーズ状態になり、録音レベル表示がディスプレイから消えます。

START...録音を再開します。

PLAY...ソースの演奏を再開します。

RETURN...録音が最後に開始されたところまで、テープを巻き戻します。そこから直ちに、新しい録音をかぶせることができます。

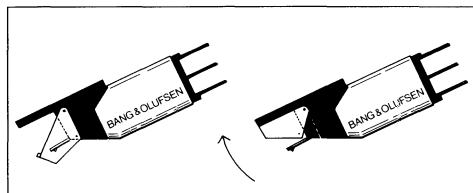
ドルビーNR（ノイズ・リダクション）システムは、テープのヒス・ノイズを低減させます。Beocord 7000 以外のテープレコーダーで再生する場合は、録音時にドルビーBにセットしておくことを、お勧めします。

Beocord 7000 に搭載されたオート・ドルビー・システムは、ドルビー研究所とバング&オルフセンが共同で開発したシステムです。

Beocord 7000 は、HX-Pro録音システムが搭載されており、ドルビー研究所の協力を得て、バング&オルフセンによって開発されたこの自動回路は、どのタイプのテープを使っても最適な録音状態を作り出すものです。

このシステムは、録音中に自動的に作動し、録音されたテープを、HX-Proを搭載していないテープレコーダーで再生した場合でも、効果ははっきりと分ります。

レコード演奏を始める前に



演奏を開始する前に、カートリッジの先端のスタイラス・ガードが上がっていることを確認して下さい。

ターンテーブルは、セットされたレコードのサイズを自動的に検知し、回転数を設定します。

注意：LPサイズで45回転のレコード（マキシ・シン

グル）を演奏する場合は、手で回転数を設定して下さい。レコードの演奏を開始したらすぐに、回転数を45回転に切り替えます。

直径25センチのレコードも、手で演奏を開始して下さい。まずターンテーブルの上の<TURN>を押して、レコードの縁にトーンアームを導いて、演奏を開始します。

レコード演奏

レコード演奏

PHONO

青いディスプレイの中の白いキー、PHONOで、レコードの演奏が開始されます。

注意：ディスプレイにLOAD DISK と表示された場合は、ターンテーブルにレコードが置かれていないことを示します。

選曲 < >

レコードの演奏中は、赤いキー<と>を使って、トーンアームを約8mmずつ前後に移動させることができます。

レコードの演奏が最後まで終ると、トーンアームは、自動的に元の位置に戻ります。

オートスランバイ

レコードの演奏が終ると、Beogram 7000 はポーズ状態になり、新たな指示を待ちます。30分間何の指示も与えられなかった場合は、システム全体がスタンバイになります。

他のソースへの切り替え

レコード演奏中に他のソース、例えばラジオ、を聞きたい場合は、赤いSOURCEキーに触れて、青いディスプレイの中に白いソースキーを呼び出して、RADIOを選びます。

他のソースが選ばれると、レコードは自動的にポーズ状態になります。

PHONOに触れると、この画面が現れる→

レコード演奏停止／再開

レコードをポーズにするには、STOP、演奏再開する場合にはPLAYに触れます。



STOP...レコードをポーズにします。トーンアームは盤面から上がり、指示が出された位置の上に留まっています。演奏再開の指示がないと、8分以内にもとの位置に戻ります。

PLAY...演奏再開。

一つのソースの演奏中に、他のソースを操作する

CONTROL

赤いキー CONTROL で、現在使用中のソース以外の、システムに含まれたソースを操作できます。

これは、ラジオを聞きながらCDの選曲プログラムを行いたい時や、テープを最初まで巻き戻しておきたい時などに便利です。CONTROLに

触れると、青いディスプレイの中に白いソース・キーが現れます。これで、コントロールしたいソース、例えばCD、を選ぶことができますようになります。

注意：コントロールしたいソースに対して、演奏開始を指示した場合、例えばCDの特定のトラック番号の演奏を指示した場合など、コントロールしたいソースの演奏が開始されてしまいます。元々聞いていたソースは、中断されます。

CONTROLに触れます。

この画面が現れる→

コントロールしたいソースを選びます。例えばCD。



EXIT...コントロール機能モードを終了させ、もとのソースに関するディスプレイに戻ります。

この画面が現れる→

選んだソースの操作を、ディスプレイの中のキーや赤いキーを使って、通常通り続けてください。

CDプレーヤー、テープレコーダー、レコードプレーヤーのそれぞれの取り扱い説明をご参照下さい。



赤いステータス・ディスプレイに、コントロール中のソースが表示されます。

注意：もしCDがスタンバイ・モードだと、トラック数は登録されません。

プログラム機能

Beosystem 7000 に、直ちに実行させたい動作とともに、特定の時に実行させたい操作を、プログラムできます。

例えば、異なったソースを幾つか選び、1つのソースが終わったら次のソースが自動的に演奏を始める、連続自動演奏予約が行えます。

Beosystem 7000 に、直ちに実行させたい動作とともに、特定の時に実行させたい操作を、プログラムできます。

例えば、異なったソースを幾つか選び、1つのソースが終わったら次のソースが自動的に演奏を始める、連続自動演奏予約が行えます。

また、特定の日に特定のソースを、演奏させたり録音したり、またスタンバイにさせたりすることができます。

タイマー・プログラムを行う前に、Beosystem 7000 の内蔵クロックが正しい時刻にセットされていることを、確かめて下さい。
こうしたすべてのプログラミング機能は、赤い

キーPROGRAMを使って呼び出します。

注意：プログラミング機能を使用している間は、Beolink 7000 は通常より長い間起動し続けています。

時刻のセット

赤いキー、PROGRAM に触れます。

この画面が現れる→

CLOCKに触れ、クロックのセット機能呼び出します。



PL.NEXT....連続自動予約演奏プログラム機能の呼び出し。

TIMER....タイマー・プログラミング機能の呼び出し。

CLOCK....クロックのセット機能呼び出し。

EXIT....プログラム機能モードを終り、前の画面へ戻る。

DATE....日付の設定を行う。

TIME....時刻の設定を行う。

STORE....設定した日付と時刻を登録する。

GO-BACK....一つ前のディスプレイに戻る。

この画面が現れる→

DATEに触れて、日付を設定。



この画面が現れる→

このディスプレイの中の各キーを使って、日付を設定します。カレンダーが内蔵されていますので、日付／月／年の3つが、連動して変化します。
日付をセットし終わったら、ACCEPTに触れます。

1つ前のディスプレイに戻ります。

TIMEに触れて、時刻の設定を行います。

この画面が現れる→

正しい時刻を、赤いテンキーを使って入力します。

正しい時刻を入れたら、ACCEPTに触れます。

入力したばかりの正しい日付と時刻が、ディスプレイに表示されたら、STOREに触れて登録。

ディスプレイには、STORINGという表示に続いて、PROGRAMMING COMPLETED と表示されます。

→これで、クロックが正しくセットされました。ディスプレイは、クロック設定を開始する1つ前の画面に戻ります。



<MONTH/MONTH>....月の設定

<DAY/DAY>....日の設定

<YEAR/YEAR>....年の設定

ACCEPT....ディスプレイ上の日付を承認する

ACCEPT....ディスプレイ上の時刻を承認する

DELETE....入力した時刻を削除する

ACCEPTとDELETEは、数字を入力し始めてから、表示されます。

注意：Beosystem 7000 の内蔵クロックは、24時間時計です。14:45と表示されていた場合は、午後2時45分を意味しています。

省略記号

MON:	MONday	月曜日
TUE	TUEsday	火曜日
WED	WEDnesday	水曜日
THU	THUrsday	木曜日
FRI	FRIday	金曜日
SAT	SATurday	土曜日
SUN	SUNday	日曜日

JAN	JANuary	1月
FEB	FEBruary	2月
MAR	MARch	3月
APR	APRil	4月
MAY	MAY	5月
JUN	JUNe	6月
JUL	LULy	7月
AUG	AUGust	8月
SEP	SEPtember	9月
OCT	OCTober	10月
NOV	NOVember	11月
DEC	DECember	12月

この画面が現れる→

演奏時刻指定

赤いテンキーを使って、ラジオの演奏開始時刻
(=7:00)を入力し、ACCEPTに触れて承認。

```
TIMER PLAY RADIO 3      A.MASTER
START: 7:00
EXIT
GO-BACK
```

システムの内蔵クロックが24時間時計であることを、
忘れないで下さい。7:00は、常に朝の7時を意味
しています。

この画面が現れる→

終了時刻指定

演奏終了時刻を特定したくない場合は、NO-STOPに触
れます。

または、ラジオの演奏終了時刻を入力して、ACCEPT。

```
TIMER PLAY RADIO 3      A.MASTER
START 7:00
STOP: 7:00
EXIT
NO-STOP GO-BACK
```

NO-STOP...タイマー演奏開始されたソースの演奏は、
特定の時刻に終了しません。

注意：演奏終了時刻を指定すると、システムはその時
刻に再びスタンバイ状態になります。ただし、タイマ
ー演奏プログラムが実行される前に、すでにシステム
が何かを演奏していた場合と、タイマー演奏開始後、
他のラジオ曲を選択した場合には、演奏は終了されま
せん。

システムを、何を演奏しているかに関わりなく、指定
した時刻に確実にスタンバイにさせたい場合は、タイ
マー・スタンバイをプログラムして下さい。

この画面が現れる→

毎週実行

毎週実行するタイマー・プログラムにする場合は、
WEEKLYに触れます。

```
TIMER PLAY RADIO 3      A.MASTER
START: 7:00 NO-STOP
EXIT
SINGLE DAILY WEEKLY GO-BACK
```

SINGLE...そのタイマー・プログラムが、その時刻に1
回だけ実行されることを指示します。このキーを選ぶ
と、次に実行する日付を選ぶ画面が現れます。

DAILY...そのタイマー・プログラムが、毎日指定した
時刻で実行されることを指示します。

WEEKLY...そのタイマー・プログラムが、毎週指定さ
れた曜日の指定された時刻に繰り返されることを指示
します。

この画面が現れる→

曜日指定

1週間のうち、ウェークデイにのみ実行させる場合は、
MON, TUE, WED, THU, FRIに触れ

ACCEPTに触れます。

```
TIMER PLAY RADIO 3      A.MASTER
START: 7:00 NO-STOP
DAY(S):
MON TUE WED THU EXIT
FRI SAT SUN ACCEPT GO-BACK
```

GO-BACKを押せば、プログラムの途中でも前の画面に
戻ることができます。

この画面が現れる→ タイマープログラム登録
STOREに触れて、タイマー・プログラムを登録。

```
TIMER PLAY RADIO 3      A.MASTER
START 7:00      NO-STOP
DAY(S): MON TUE WED THU FRI

                        STORE      EXIT

EDIT                GO-BACK
```

EDIT....表示されている内容を、変更する時に使います。

EDITに触れると、どの情報を変更するかを聞いてくる白いキーが現れます。変更したい内容を示すキーに触れて下さい。

この画面が、短い間現れ→ 登録中

```
TIMER PLAY RADIO 3      A.MASTER

STORING
```

プログラミング登録中。

最後にこの画面が、現れる→ プログラム完了

```
PROGRAMMING COMPLETED
```

プログラミングが完了し、登録されました。

→プログラミングが完了し、確認されます。画面は、プログラミングを開始する直前の画面に戻ります。

注意：プログラムしたタイマー録音を、スピーカーから音を出さずに実行したい場合は、Beomaster 7000の正面パネル右下のMUTEを押しながら、左下のSTEP PROGRAMを押して下さい。TIMER OFFという表示がBeomaster本体上に現れ、タイマー録音は音を出さずに実行されます。

その他のタイマー機能

TIMERに触れた時に現れる白いキーは、選択できる機能をメニューのように並べたものです。この中から必要な機能を選んで下さい。

```
TIMER PROGRAMMING

CHECK                                EXIT
PLAY  RECORD  STD-BY                GO-BACK
```

タイマー録音

タイマー録音をプログラムする場合は、RECORDに触れます。

この画面が現れる

```
TIMER RECORD                          A.REC
SOURCE:
EXIT
RADIO  A.TAPE  CD    PHONO  GO-BACK
```

この画面は、タイマー録音するソースを選択する画面です。

青いディスプレイに次々に現れる指示に従って、入力して行って下さい。

タイマースタンバイ

タイマー・スタンバイをプログラムしたい場合は、STD-BYに触れます。

この画面が現れる

```
TIMER STAND-BY
STAND-BY: _ _ _ _
EXIT
GO-BACK
```

この画面は、タイマー・スタンバイする時間を指示するように促しています。

青いディスプレイに次々に現れる指示に従って、入力して行って下さい。

タイマープログラムの確認

すでにタイマー・プログラムしてある内容を確認したい時は、CHECKに触れます。

タイマー演奏プログラムの内容を確認したい時は、PLAYに触れます。

この画面が現れる

```
TIMER PLAY RADIO 3                A.MASTER
START 7:00      NO-STOP
DAY(S): MON TUE WED THU FRI
<TIMER  TIMER>                    CLEAR  EXIT
EDIT  SKIP  SUSPEND                GO-BACK
```

<TIMER/TIMER>....入力されているタイマー・プログラムを、1つずつ表示していきます。

EDIT....タイマー・プログラムの内容の、変更をする時に使用します。

SKIP....「毎日実行」「毎週実行」のプログラムで、次の1回だけ、実行しないように、と指示します。

SUSPEND....「毎日実行」「毎週実行」のプログラムで、次に指示を出すまで実行しないように、と指示します。

CLEAR....表示されているタイマー・プログラムを削除します。このキーに触れると、削除していいか（または指示をキャンセルするか）聞いてきますので、削除する場合はYES、キャンセルの場合はNOに触れて下さい。

26、27、28ページに、タイマー演奏を中心に、タイマー・プログラミングの具体的なやり方が説明されています。

連続予約演奏プログラム PLAY NEXT

Beosystem 7000 のソースを幾つか選択しておいて、1つのソースの演奏が終了したら、次のソースの演奏が自動的に開始されるように、各ソースの自動演奏の順序を、予約しておくことができます。

どのソースも、最高で10回以内であれば何回でも、予約演奏プログラムの中を含むことができます。また、連続予約演奏を含むことのできる「ソース」の最大数も、10個までです。

連続予約演奏プログラム

赤いキー、PROGRAMに触れてから、PLAY NEXTに触れます。

この画面が現れる→

A.TAPE (またはCD、またはPHONO) を最初のソースとして選びます。

この画面が現れる→

CD (またはPHONO) を、2つ目のソースとして選びます。

**PROGRAM PLAY NEXT CD PLAY NEXT
PHONO ...** (ソースを選択)

この画面が現れる→

連続演奏させたいソースを、次々に選択していきます。

連続予約演奏の確認

連続演奏の順序を確認したい場合は、CHECKに触れて下さい。

「スタンバイ」をソースとして選ぶこともできますが、連続演奏の最後の「ソース」として選択して下さい。演奏の終了が事実上あり得ないラジオを選んだ場合も、それ以降にソースを加えることはできません。

赤いキーPROGRAMに触れてから、PLAY NEXTに触れ、連続予約演奏プログラム機能呼び出します。

```
TIMER NEXT SEQUENCE
NEXT SOURCE:
          STD-BY          EXIT
RADIO  A.TAPE  CD  PHONO  GO-BACK
```

この画面は、最初のソースを選ぶように促しています。

```
PLAY NEXT SEQUENCE
A.TAPE
NEXT SOURCE:
CHECK  STD-BY  START  EXIT
RADIO  A.TAPE  CD  PHONO  LOCK
```

選んだソースが、画面に表示され、次のソースを選ぶように促されます。

STD-BYをソースとして選択すると、Beolink 7000 には **NO MORE SOURCES TO BE ADDED** と表示されます。これは、スタンバイを選んでしまったので「これ以上ソースを加えることはできません」という意味です。

CHECK...連続演奏の順序が確認できます。

START...連続演奏がすぐに開始されます。

LOCK...連続演奏の順序を固定し、その順序で何度も繰り返します。

```
PLAY NEXT SEQUENCE
CD
NEXT SOURCE:
CHECK  STD-BY  START  EXIT
RADIO  A.TAPE  CD  PHONO  LOCK
```

この画面が現れる→

連続予約演奏プログラムの確認/追加/削除

<SOURCEまたは SOURCE>に触れると、予約済みのソースが1つずつ呼び出されます。

後から連続演奏予約にソースを追加したい場合は、ADDに触れてから追加したいソースを選んで下さい。

STARTに触れると、連続予約演奏開始。

```
PLAY NEXT SEQUENCE
A.TAPE

<SOURCE SOURCE> START CLEAR EXIT
ADD CLR-SEQ LOCK
```

<SOURCE/SOURCE>...連続演奏されるソースを、演奏順または演奏されるのは逆の順序で1つずつ呼び出します。

1番最初、または最後のソースまで呼び出すと、画面には NO MORE SOURCES PROGRAMMED と表示され、それ以上プログラムされたソースがないことを示します。

ADD...連続演奏にさらにソースを追加します。

START...連続演奏が、直ちに開始されます。

CLEAR...画面に現在表示されているソースを、削除します。

CLR-SEQ...連続演奏予約全体を、削除します。このキーに触れると、削除していいか(または指示をキャンセルするか)聞いてきますので、削除する場合はYES、キャンセルの場合はNOに触れて下さい。

LOCK...連続演奏予約全体を固定し、何度も繰り返させることができます。

連続予約演奏プログラムのメモリーロック

STARTに触れる前にLOCKに触れると、この画面が現れます→

```
PLAY NEXT SEQUENCE LOCKED
A.TAPE

<SOURCE SOURCE> START CLEAR EXIT
ADD REPEAT STOP CLR-SEQ LOCK
```

LOCK機能を使うと、プログラムされた連続予約演奏はメモリーに記録され、何回でもその順番で繰り返すことができるようになります。

REPEAT...プログラムされた順番で、何回でも繰り返します。ラジオまたはスタンバイがソースとして選ばれていない場合にのみ、行えます。

STOP...連続演奏を停止します。再開する場合はSTARTに触れて下さい。

サウンドレベルの調整

Beosystem 7000のサウンドレベルを好みに合わせて調整し、プリセットできます。

BALANCE (左右のバランス)

左右のスピーカーの音のバランスを、リスニング・ポジションに合わせて変えることができます。

赤いキー-SOUNDに触れて、サウンド調整機能呼び出します。

この画面が現れる→

サウンドレベル調整

この中から、調整したい項目を選んで下さい。

VOLUME
BALANCE
BASS
TREBLE
LOUDNS

BASS (低音) と TREBLE (高音)

低音と高音の強さも、好みに合わせて変えられます。

LOUDNESS (ラウドネス)

ラウドネス機能のオン・オフができます。

ラウドネス機能は、小さい音量で聴く場合、人の耳に低音部と高音部の周波数が聞こえにくくなるのを、補正する機能です。この機能は、聞こえにくくなる周波数帯域を「持ち上げ」、低い音量でもダイナミックな音楽が楽しめます。

サウンド調整を行いたい場合は、赤いキー-SOUNDに触れて下さい。

注意：工場出荷時のBeosystemのサウンド・レベルは、ほとんどの聴取環境に適合するように、すべてニュートラル(中央)になっています。

音量の上下は、赤いキーの中の上下を向いた矢印で行います(7ページをご覧ください)。



LOUDN....ラウドネス機能のオン・オフを行います。オンにすると、LOUDNという表示がBeomasterの正面パネルに現れます。

BALANCE....左右の音量バランスを調整します。

BASS....低音の強さを調整します。

TREBLE....高音の強さを調整します。

STORE....現在のサウンド・レベルを登録します。

RESET....現在のサウンド・レベルを、登録されているサウンド・レベルに戻します。

EXIT....サウンド調整機能解除。

低音の強さの調整をするには、BASSに触れます。

この画面が現れる→

低音を強調

低音を強調したい場合はUPに、弱くしたい場合はDOWNに触れます。



UP/DOWN...高音または低音を、強調したり弱くしたりします。上下に6段階で調整でき、0がニュートラル（中央）です。

STORE...現在のサウンド・レベルを登録します。このキーに触れると、サウンド調整を始める前の画面に戻ります。

EXIT...サウンド調整機能解除。

GO-BACK...1つ前の画面に戻ります。

高音を調整

高音の強さの調整をするには、TREBLEに触れます。

この画面が現れる→

高音を強調したい場合はUPに、弱くしたい場合はDOWNに触れます。



スピーカーの左右のバランス

スピーカー間のバランスを調整するには、BALANCEに触れます。

この画面が現れる→

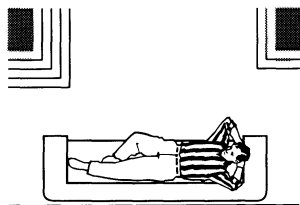
左側のスピーカーからの音量を大きくしたい場合には<LEFT>、右の場合はRIGHT>に触れます。



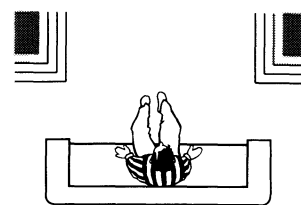
<LEFT>/RIGHT>...左右の音量を調節します。左右に6段階調節でき、“=”が、現在のバランス位置を示しています。この画面の場合、バランス位置は左右のスピーカーのちょうど中央です。

リスニング・ポジションに合わせて、左右のバランスを調整して下さい。

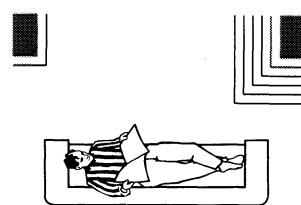
左スピーカーからの音を大きくする。



両方のスピーカーの音のバランスが同じレベル



右スピーカーからの音を大きくする。



赤い操作キーについて

青いディスプレイに、すべてのソースを呼び出します。現在演奏中のソースに影響を与えることなく、呼び出し、操作できます。

CONTROL

青いディスプレイの中に、白いソースキーをすべて表示します。表示されたソースを操作することができるようになります。(P.23)

MASK

最も基本的なキーだけを、表示させるキーです。再度触れると、隠されていたキーがすべて表示されます。

MUTE

システムのスイッチを切ることなく、音を止めます。再度触れると、音が出ます。

PANEL

Beolink 7000 の初期設定を行うときに使うキーです。システム全体の操作に当り、どのような機能を使用可能とするかを決定します。(Beolink 7000 の取り扱い説明書をご覧ください)

PROGRAM

タイマープログラム、PLAY NEXTプログラム、時刻の設定をするときに使います(P.30)。

RECORD

録音をするときに使います(P.19)。

SOUND

低音・高音の調整、左右のバランスなど、サウンド調整を行うときに使います(P.32)。

SOURCE

青いディスプレイの中に、操作可能なソースをすべて表示させます(P.6,12,16,19,22)。

0-9 (テンキー)

選曲、選局をするとき等、番号を指定する場合に使います。

< >

曲やプログラム番号を飛ばしていくときに使います。<の矢印は前の番号に戻り、>の矢印は後ろの番号に進めます。

▽ △

音量を上下します。△で音量が上がり、▽で下がります。

●

システム全体をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態とは、バング&オルフセンのシステムにおいてはスイッチオフを意味します。

白い操作キーについて

A

A.AUX(AUDIO AUXILIARY)

システムの AUX 端子に接続された製品を選択します。

ACCEPT

プログラミング時に、入力したデータを確認し、次の段階に進みます(P25, 27)。

ADD

PLAY NEXT プログラムで、次のソースを追加します(P30)。

AM/FM

AM/FMを切り替えます(P9)。

A.REC(AUDIO RECORDER)

録音をする時、TAPE 1に接続された、または内蔵のテープレコーダーを選択します。録音時とタイマー録音プログラム時に表示されます(P19)。

A.REC2(AUDIO RECORDER 2)

録音をする時、TAPE 2に接続されたテープレコーダーを選択します。録音時とタイマー録音プログラム時に表示されます(P19)。

A.TAPE (AUDIO TAPE)

TAPE 1に接続された、または内蔵のテープレコーダーをソースとして選択します。

A.TAPE2(AUDIO TAPE 2)

TAPE 2に接続されたテープレコーダーをソースとして選択します。

AUT.REV(AUTOMATIC REVERSE)

テープレコーダーのオートリバース機能の、オン・オフを行います(P18)。

B

BALANCE

スピーカー間のバランス調整を行います(P32,33)。

BASS

低音の強さを上下します(P32,33)。

C

CD

ソースとして、CDプレーヤーを選択します。

CHECK

プログラムしたデータを確認します(P26,29,30)。

CLEAR

プリセットされたプログラム、タイマープログラムを、キャンセルします。また、PLAY NEXT でプログラムされた連続演奏の個々のソースをキャンセルします(P10, 29,31)。

CLOCK

時刻の設定モードを呼び出します(P24)。

CLR-SEQ(CLEAR SEQUENCE)

プログラムされた曲や、PLAY NEXT の順序をクリアします(P13,17,31)。

D

DAILY

タイマープログラミングで、毎日実行を選択します(P27)。

DATE

タイマープログラミングで、1回だけ実行を指示した場合の、実行日を設定したり、クロックの日付を変えたりします(P24)。

DAY(S)

週単位のプログラム時に、曜日を選択します。

<DAY/DAY>

1つの曜日から次の曜日へ移って行きます(P25)。

DELETE

1回だけ実行のプログラム時の日付等、入力したばかりのデータを削除します(P10,11,25)。

DISPLAY

曲番号表示から残り時間表示への切り替え等、ディスプレイのモードを切り替えます。初期設定時にも、表示されます(P10,14,18,20)。

DOWN

文字や数字を、1つ1つ呼び出します。また、サウンド調整時にも使われます(P11,33)。

F

<FINE/FINE>

ラジオのファインチューニング(微調整)(P9)。

FREQNCY(FREQUENCY)

ラジオ局を周波数指定で選局します(P9)。

FRI(FRIDAY)

タイマープログラム時に、金曜日を選択します(P27)。

G**GO-BACK**

青いディスプレイを、一つ前の画面に戻します。

GO-TO

特定のテープ位置（カウンターポジション）を指定します(P17)。

I**INDEX**

CDソフトの、インデックス番号を指定します(P13,14)。

L**LEFT**

ラジオ局のネーミング時に、ポインターを1つ前の文字に移動させます(P11)。

<LEFT

左右の音のバランス調整時、左を強調します(P33)。

LOCK

PLAY NEXT の順番を固定します(P30,31)。

LOUDNS (LOUDNESS)

ラウドネス機能のオン・オフ(P32)。

M**MON (MONDAY)**

タイマープログラム時に、月曜日を選択します(P27)。

MONO

ステレオ受信、モノラル受信の切り替え(P10)。

<MONTH/MONTH>

1つの月から、次の月へと進みます(P25)。

<MORE/MORE>

さらに多くのプログラムやトラック番号を表示させます(P15,17,18)。

MOVE

beolink 7000 を起き上がらせたり寝かせたりします (beolink 7000 取扱説明書の26ページをご覧ください)。

N**NO-STOP**

タイマー録音、タイマー演奏時に終了時間を指定しない場合に使います(P27)。

NR (DOLBY NOISE REDUCTION)

ドルビーB、C、オフの選択(P18,20)。

O**OPTIONS**

オプションのセットアップを行う (beolink 7000 取扱説明書の27ページをご覧ください)。

P**PAUSE**

録音を一時停止(P20)。

PG.NAME (PROGRAM NAME)

ラジオ局に名前をつける機能を、呼び出します(P11)。

PHONO

ソースとして、レコードプレーヤーを選択します。

PLAY

CD、テープ、レコードの演奏を開始します。

PL.NEXT (PLAY NEXT)

PLAY NEXT プログラム画面を呼び出します(P24,30)。

PRESET

選んだラジオ局を、特定の番号で登録する機能を呼び出します(P10)。

PROGRAM

タイマープログラム時にプログラムの数字を変更します。

R

RADIO

ソースとして、ラジオを選択します。

RECORD

タイマー録音プログラム機能呼び出します(P26,29)。

> RECORD

録音ポーズ時に、ソースの操作とテープレコーダーの操作を切り替えます(P19)。

REJECT

選曲プログラムを行っている時に、特定の曲を削除します(P13)。

REPEAT

固定された PLAY NEXT プログラムを、手動で停止しない限り何回でも繰り返します(P31)。NO CONTACT が表示された場合にも、その直前の指示を繰り返し実行する指示を与えるキーとして現れます。

RESET

プリセットされたレベルに、各サウンド・レベルを戻します(P32)。

RETURN

最後に録音が始まった場所までテープを巻戻します(P19,20)

RIGHT

ラジオ局のネーミング時に、ポインターを1つ後ろの文字に移動させます(P11)。

RIGHT>

左右の音のバランス調整時、右を強調します(P33)。

S

SAT(SATURDAY)

タイマープログラム時に、土曜日を選択します(P27)。

SCAN

CDのイントロだけを演奏します(P13)。

< SEARCH/SEARCH >

ラジオの選局を行います。受信可能な放送局を見つけると、その周波数で停止し、受信します(P9)。

SELECT

選曲プログラム時に、特定のトラック番号を選びます(P13,17)。

SEQNCE (SEQUENCE)

CDまたはテープの選曲プログラムを行います(P13,17)。

SET UP

各ソースに特有の機能呼び出します。また、パネルセットアップを行います(P9,13,14,17,19,20,26, beolink 7000 の取扱説明書も参照して下さい)。

SINGLE

タイマープログラム時に、1回だけ実行を指示します(P27)。

SKIP

プログラムされているタイマープログラムを次の1回だけ実行しないように指示します(P29)。

SOURCE

タイマープログラム時に選択可能なソース呼び出します。

> SOURCE

録音ポーズ時に、テープレコーダーの操作からソースの操作へ切り替えます(P19)。

< SOURCE/SOURCE >

プログラムされた PLAY NEXT のソースを、次々に表示します(31)

SPACE

CD演奏時に、曲間に4秒のポーズを自動的に入れません(P14)。

START

録音やPLAY NEXT プログラムの演奏を開始させる場合に、指示した機能をスタートさせます。タイマープログラム時は、プログラムの開始時間を変更します。

STATUS

システムの現在の状況を表示させます。

STD-BY (STAND BY)

タイマースタンバイプログラム機能呼び出します。PLAY NEXT プログラムの終了時間の指定もできます(P26,29,30)。

STOP

演奏、録音等、現在進行中の機能を停止させます。タイマープログラム時は、停止時間の変更を指示します。

STORE

プログラミングやセットアップ指示を、登録します。

SUN(SUNDAY)

タイマープログラム時に、日曜日を選択します(P27)。

SUSPEND

新たな指示を出すまで、タイマープログラムの実行を保留します(P29)。

SYSTEM

プログラム画面の最初に現れます。beolink 7000 の初期設定のうち、システムセットアップ画面を呼び出すキーです(P26,27 beolink 7000 の取扱説明書を参照して下さい)。

T

THU (THURSDAY)

タイマープログラム時に、木曜日を選択します(P27)。

TIME

タイマースタンバイプログラム時に、時刻の変更を行います。

TIMER

タイマープログラム機能呼び出します(P24,26)。

<TIMER/TIMER>

タイマープログラムされた内容を、1つ1つ表示します(P29)。

TREBLE

高音の強さを調整します(P32,33)。

TUE (TUESDAY)

タイマープログラム時に、火曜日を選択します(P27)。

TUNE

選局(チューニング)を行います(P9)。

TURN

テープを演奏面を切り替えます(P18)。

TYPE

タイマープログラムの選択肢(1回だけ実行、毎日実行、週単位で実行)を選択します。

U

UP

文字や数字を、1つ1つ呼び出します。また、サウンド調整時にも使われます(P11,33)。

Y

<YEAR/YEAR>

クロックのセットをする画面に現れ、年を設定します(P25)。

W

WEEKLY

タイマープログラム時に、週単位での実行を指示します(P27)。

WED (WEDNESDAY)

タイマープログラム時に、水曜日を選択します(P27)。

操作メッセージ

Beolink 7000 は、起動したり指示を与えられたりする度に的確に反応します。

しかし、いくつかの特別な場合には、青いディスプレイの中に操作手順そのものに関するメッセージが、表示されることがあります。操作メッセージには、次のようなものがあります：

FILL IN AGAIN

あなたが指示したプログラム番号やトラック番号が存在していないため、確認してもう一度指示しなすように、促しています。実際には存在しない日付や時刻を入力した場合にも、表示されます。

NO CONTACT

システムが、あなたの指示を受信していません。信号を妨害しているようなものがないか、チェックした上で、もう一度指示を繰り返して下さい。また、このメッセージは、指示を与えようとしているシステムにフィードバック機能がない場合にも、現れます。

OPERATION CONFLICT

あなたの指示をシステムが了解しておらず、実行できないことを意味します。

WAIT....

与えられた指示を処理中なので、次の段階に進むのを少し待ってほしい、というメッセージです。

WORKING....

Beolink 7000 が起動し、システムからの情報を受け取っているところです。すぐに、適切なキーが表示されます。

Beomaster 7000

これらの文字や記号が、すべて同時に表示されることはありません。

タイマー・プログラム実行中、
スピーカーが切られている

ラウドネスのオン・オフ表示

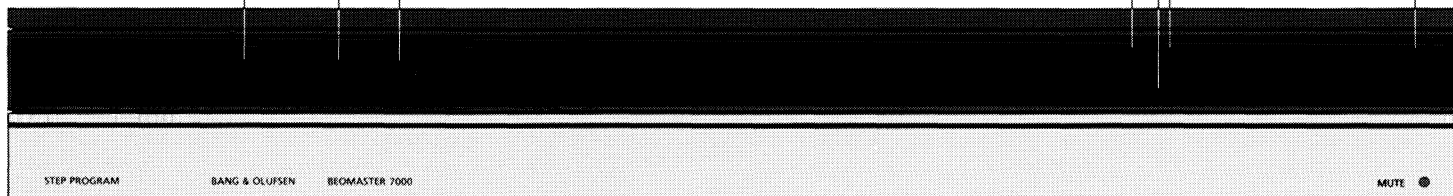
自動微調整オン・オフ表示

ラジオ局プリセット番号。
FM/AM表示 (FまたはA)

バス (低音) 調整中

トレブル (高音) 調整中

ソース名表示



Beogram CD 7000

これらの文字や記号が、すべて同時に表示されることはありません。

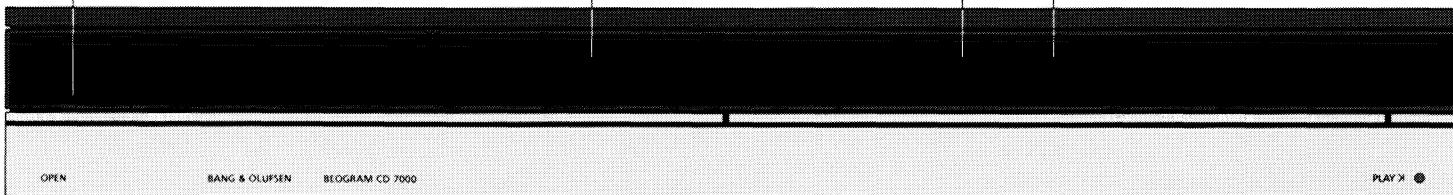
曲間スペース機能オン・オフ

トラック番号。演奏中のトラック番号が点滅

+は、14曲以上含まれていることを表示

CDプレーヤーがポーズ中

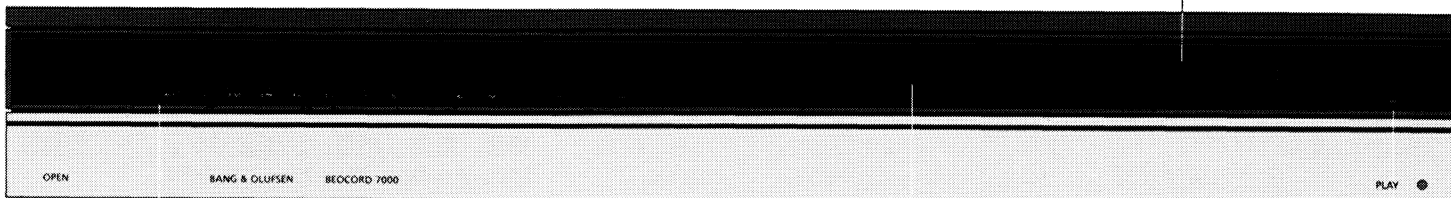
サーチ中



Beocord 7000

これらの文字や記号が、すべて同時に表示されることはありません。

ドルビー・モード表示
(ドルビー-B、C、オフ)



トラック番号または信号レベル。
>DISPLAY>に触れると、この2
つの表示が切り替わる

テープの曲数が検知されている場
合は、演奏中の曲番号が点滅

サーチの進行状況を表示

巻き戻し中、または早送り中を
表示

AUTO)RECORDING
録音レベル自動調節 (AUTO)で、
録音中

(AUTO)RECORDING PAUSE
録音レベル自動調節 (AUTO)で、
録音ポーズ中

走行中のテープ面表示。
走行中の面が点滅

矢印が、オートリバース
機能のオン・オフを表示

Beogram 7000

この表示は、トーンアームと平行して取り付けられた
インディケーター・アームの正面に表示されます。



現在演奏中のレコードの、回転数を表示

このページは、Beolink 5000を使って、Beosystem 7000を操作する場合の簡単な操作方法を示します。詳しくは、Beolink 5000の取り扱い説明書をご参照下さい。

ここでは、Beolink 5000が持っている3つの異なったボタン群は、下記のように示されています：

[RADIO] 正面の長方形のボタン
 (MENU) 正面の円形のボタン群
 [PROGRAM] 裏側のくぼみに収められたボタン群

現在の演奏状況

[STATUS] 現在のシステムの演奏状況を表示

演奏ソースの選択

[RADIO] ラジオ放送受信
 [A.TAPE] テープの演奏開始
 [CD] CDの演奏開始
 [PHONO] レコード演奏開始
 [SHIFT][A.TAPE] 接続された2台目のテープデッキの操作

演奏ポーズと再開、スイッチオフ

(STOP) 演奏ポーズ
 (PLAY) 演奏再開
 [●] システム全体のスイッチをオフする

選局 (ラジオ) と選曲 (テープ/CD/レコード)

[0]から[9] 演奏中のソースの他のトラック (曲) を選曲(テープ/CD)
 ラジオ受信時は、プリセットされたラジオ局を受信、
 [0]を押すと、直前に聞いていたラジオ局を受信
 (△)または(▽) 前後の曲の選曲(テープ/CD)
 プリセットされたラジオ局間の選局
 レコードの終わり、または、始まりへ向かって移動
 (<) (>) CD、テープの終り、または、始まりへ向かってサーチ

音量の調整

(^) 音量を上げる
 (v) 音量を下げる
 [MUTE] スピーカーの音を切る (ミュート)
 もう一度押すとミュートを解除し、音が出る。
 [RESET] 音量を、プリセットされたレベルに戻す

サウンドレベルの調整

(SOUND)を押すと、サウンド調整の項目が順に現れます

VOLUME 音量レベル
 BALANCE 左右の音のバランス
 BASS 低音の強さの調整
 TREBLE 高音の強さの調整
 LOUDNESS ラウドネス オン・オフ

音量、低音 (バス)、高音 (トレブル) の調整

調整したい項目が表示されるまで数回押す
 レベルを上げる
 (^)
 レベルを下げる
 (v)

バランス調整

(<) 左スピーカーの音を大きくする
 (>) 右スピーカーの音を大きくする

サウンドレベルのプリセット

(SOUND) 1回押して、プリセット機能呼び出す
 [STORE][STORE] 裏側にあるボタン[STORE]を2回押しプリセット

選曲プログラム

CDやテープを好きな順序で聴く選曲プログラム
 選曲プログラムは、必ず選曲したいソースを演奏中に行います。プログラム中、演奏を停止したい場合は、(STOP)を押し、ポーズ状態にします。

(MENU) を押し、選曲プログラム機能呼び出す
 [1]から[9] SELECTの表示の後に、聴きたい曲をテンキーで順に選曲
 (PLAY) 最後に押すと、プログラムされた曲順通りに演奏開始

[CLEAR][CLEAR] 2回押すと、選曲プログラムをキャンセル
 CDやテープを取り外しても、キャンセルされる

コントロール機能

あるソースの演奏中に他のソースを操作する
 ラジオを聞きながらCDまたはテープの選曲プログラムを行いたい時や、演奏中のレコードが終わる前にテープを巻戻しておきたい時などに便利

[CONTROL] CONTROL機能呼び出す
 [A.TAPE] コントロールしたいソースを選択、例えば、テープ
 選んだソースを通常の方法で操作する
 (<) 例えば、テープの巻戻し

ラジオのチューニング

[RADIO]	ラジオを受信する
[GOTO]	チューニング機能呼び出し
(△)または(▽)	ラジオ局を選局する
または[0]から[9]	テンキーを使って周波数指定選局
[SHIFT][GOTO]	微調整(ファインチューニング)を行うときに押す
(△)または(▽)	ファインチューニング開始
[GOTO][TURN]	FM/AMの切り替え
[STORE]	プリセット機能呼び出し
[1]	受信中のラジオ局に、テンキーでプリセット番号をつける 例えば、プリセット番号1に登録

録音

[A.RECORD]	現在聞いているソースを録音するには テープレコーダーへの録音を指示
[REC.START]	録音開始
[REC.STOP]	録音ポーズを指示するとき押す
[RETURN]	を押すと、録音を開始したところまでテープを巻戻す
[REC.START]	録音を再開する場合、再度押す
[REC.STOP]	再度押せば、録音モード解除

プログラミング-タイマー録音/演奏/オフ

裏側にある[PROGRAM]ボタンで、タイマー録音を行うプログラミング機能が呼び出せます。プログラムは、演奏中でもスタンバイ状態でも行えます。

<例>「本日(15日)の夜、ラジオ放送をタイマー録音する」プログラムです。
ディスプレイに表示される文字に従って操作ボタンを押して下さい。

[PROGRAM]	プログラム機能呼び出し
(PLAY)	TIMER RECORD? /TIMER PLAY?(▽)で切り替え タイマー録音しますか? /タイマー演奏しますか?
(▽)	RECON V.TAPE? を RECON A.TAPE? に切り替えて /AUDIO SYSTEM? タイマーオフの時は、ここでSTAND.BYが出るまで(▽)を 押す
(PLAY)	SOURCE RADIO、ラジオをソースとして選択
[3](PLAY)	PROGRAM、プリセットした局番号を選択、例えば、3
[2][0][3][0]	START__:_: 開始時間をテンキーで入力、例えば、20:30
(PLAY)	STOP__:_: 終了時間をテンキーで入力 例えば、21:00
[2][1][0][0]	
(PLAY)	ONCE ONLY? 今回1回だけの実行ですか?

(PLAY)	DATE 15	今日ですか? (日付変更はテンキーで)
(PLAY)	ACCEPT?	確認してプログラムを終えますか?
(PLAY)	STORED	

Beolink 5000のディスプレイには、STORED と表示され、入力したプログラムが確認され記憶されたことを示します。

連続自動演奏予約

予約プログラムの中で、各ソースが最高10回まで演奏予約できます。
STAND-BY (スイッチオフ) も、もちろんプログラムの最後で、ソースの1つとして選択できます。しかし、演奏終了がいないラジオを選択した場合は、その後に予約できるソースはありません。

[PROGRAM]	プログラム機能呼び出し
2x(▽)	2回押して、PLAYNEXT? を画面に呼び出す
(PLAY)	SOURCE?、どのソースを選びますか? 例えば、CDを最初に演奏する
[CD](PLAY)	ソースボタンで次々にソースを選び、 予約プログラムが完了したら
[A.TAPE](PLAY)...	PROGRAM FULL が、短くディスプレイされた後、 START?、連続演奏を開始しますか?
(▽)	
(PLAY)	連続演奏スタート

予約プログラムのチェック/キャンセル

(▽) x2	2回押してCHECK? を呼び出す。
(PLAY)	キャンセルしたい場合は、CLEAR SEQ? を呼び出し を押してキャンセル。

内蔵クロックのセット

[PROGRAM]	プログラム機能呼び出し
(▽) x3	3回押して、ディスプレイにSET CLOCK? を呼び出す
(PLAY)	時刻、年月日を、テンキーを使って入力 それぞれのデータを入力するたびに、(PLAY)を押して確認

購入日

購入特約店

担当者

住所

Tel:

製品シリアルNO.:

Beomaster 7000

Beocord 7000

Beogram CD7000

Beogram 7000

Beolink 7000

Beosystem 7000

Beomaster 7000

Beocord 7000

Beogram CD7000

Beogram 7000

Beolink 7000

Bang & Olufsen 国際保証システム

Bang & Olufsenのギャランティーは、製品が製造工程上もしくは使用材料に起因する不良に限り適用されます。Bang & Olufsen製品のお買い上げ時に添付されているご愛用者カードが当社へ返送されたい、直接皆様へお届けするギャランティーカードは、国内のみならず、海外でもBang & Olufsen特約店で1年間の国際無償修理を受けられます。

また、Bang アンド オルフセン ジャパン株式会社では、独自のアフターサービスとして、当社の発行する保証書をお持ちの場合、製造工程上および使用材料に起因する不良に対して、その修理に要する部品代および技術料に限り、3年間の無料修理を保証しています。ただし、輸送に係る費用は、保証期間内においても、使用者負担となります。

注意：製品に同封されたご愛用者カードが保証書請求カードになります。ご愛用者カードを当社に返送いただかなければ、保証書を発行することができません。ご愛用者カードが同封されていない場合、また、ご愛用者カードを返送されたにも関わらず、1カ月以上保証書が送られない場合は、お買い上げ特約店を通して、ご連絡下さい。

Bang アンド オルフセン ジャパン株式会社

東京都千代田区九段北 1-4-5

九段ニューセントラルビル 1 F

Phone: 03-3261-4431 Fax: 03-3261-1722

